

地域 ニュース 大阪

近大・森本教授の

痛み学 入門講座

5



もりもと・まさひろ 平成元年、大阪医科大学大学院(麻醉科学専攻)修了。同大講師を経て、8年に近畿大学医学部麻醉科講師。22年から現職。医学博士。日本ペインクリニック学会理事。

「疲勞つもりて引出ししヘルペスなりといふ八十年生きたればそりやああなた」(齋藤史歌集「秋天瑠璃」から)
女流歌人の齋藤史は、80歳近くになって带状疱疹後神経痛に苦しみ、この歌を詠んだ。歌からは、「ヘルペスをとまかくは伴侶として生きて行かねばならない」とする覚悟が読んでとれるはずである。

「ヘルペス(带状疱疹)のブツブツが治って1年もたつのに、まだ痛みが続いているんです」

そう言って受診する患者さんが後を絶たない。「带状疱疹」は、水痘(水ぼうそう)ウイルスの回復発症(かつて感染したものが再び暴れ出すこと)によるが、そのウイルスが末梢神経を食い荒らすことが病気の本態である。その後、障害を受けた神経が枝を出している部位に新たな痛みを作り出すことがあり、これが「带状疱疹後神経痛」である。水疱(水ぶくれ)が痂皮(かさぶた)となつて脱落する頃(発症後約1カ月)に、それまでとはまったく性質の異なる激烈な痛みが表れる。带状疱疹は20代と50代以降に多くみられるが、若い世代ではこの神経痛を生じることがほとんどなく、発症時の年齢が高くなるに連れて神経痛への移行率が高くなる。不幸にも神経痛へ移行してし

带状疱疹後神経痛

痛みと付き合う姿勢も大切

まうと、「ビリビリ」「チカチカ」が起る。これは神経の変性を「力」とした痛みが終日続き、そ裏付けるもので、他の神経障害のうえに「えぐられるような」「電気が走るような」発作痛が加わる。さらには、痛みのある部位をつねっても針で刺しても痛くない▽あるいは風が吹いたり軽く触れるだけで鋭い痛みが誘発される—との不思議な状態

带状疱疹後神経痛の治療は一筋縄ではいかないことを理解してほしい。痛みを理解し、痛みと付き合っていく「姿勢を持つ



イラスト 山川 昂

るわけではなく、つことも大切になってくる。趣味に集中していれば、痛みは軽くなるはずだし、旅行に出かけて気分転換を図ることもいいだろう。带状疱疹後神経痛だからリン(抗てんかん薬の仲間)や、痛みを抑制する神経系の働きを強くするデュロキセチン(抗うつ薬)などを併用する。

森本昌宏 (近畿大学医学部麻醉科教授)

毎月第1、3土曜日に掲載します。